

東大阪

えんつうざん かのんぜんじ 圓通山 観音禅寺

わくわく探検第6弾は、JR徳庵駅から川俣スカイランド(下水処理場)まで歩いた。水の都大阪を髣髴させる探索コースは、井路や石橋の親柱を見学し、最新の下水処理場となった。寝屋川の流れる河内平野北部は、東大阪市の北部でもあり、多くの川が寝屋川に流れ込む地域で、現在も水路が多く残っている。享和元年(1801年)刊の「河内名所図会」では、桃林の中で川通りの舟や花見に興じる人々の様子が描かれ、生駒山人の漢詩「十里四方道も迷うばかりなり」と表現されている。そして、この絵にある桃が、稲田桃で、江戸時代には、稲田地域の7割が桃林であったと言われている。果実が小ぶりで先が尖り、果肉の赤みが濃い稲田桃は、桃太郎の話のなかで桃太郎が生まれる桃の姿の姿を思い出す。稲田桃は、観音禅寺の境内にも残っていて、桃を厄除けのために庭に植えた習慣があったことから、桃太郎の話が伝えたい思いをうかがうことができる。観音禅寺は、兵庫県加東郡社町にある妙仙寺の末寺で、宗洞宗の寺院である。創建年



河内名所図会



鐘樓門



境内に残る古い棟瓦

所在地：東大阪市稲田本町 3-27-12
最寄駅：JR 学研都市線徳庵駅下車南へ徒歩約 10 分
近鉄奈良線大阪駅下車近鉄バス徳庵方面行き
徳庵下車西へ徒歩約 5 分
河内西国 第三十番 稲田観音 圓通山 救世院 観音禅寺
TEL：06-6745-7778

代は不詳。古くは、東方の字観音田というところにあつて、兵火により焼失したと伝えている。その後、寛文6年(1666年)に播州三木城主の鈴木重成らによって旧寝屋川跡の現在地に再興されたといわれている。安産に靈驗著しく、美濃岩村城主丹羽式部少輔氏定の妻が当聖観世音菩薩に祈願し男児を出産。報恩のため唐金の涅槃像・涅槃図(節分会から春季彼岸の中日まで御覧いただける。)と梵鐘などを寄進、境内に桃の木千数百本を植樹した。寺の正面には、上層に梵鐘を懸けた鐘樓門を構え、その奥に聖観音をまつる唯一の江戸時代の梵鐘である(市内に残る2番目に古い梵鐘)。地面から盛り上がる、門構えの土台は中国の西安の城壁を思わせ、上屋には軒先がせり上がった唐風の屋根が乗っている。

私がお子供のころから知る釣鐘堂は、お城の石垣のような土台に、寄棟の質実剛健タイプしか知らなかったが、観音禅寺の梵鐘は、大陸文化の残るイメージに東洋のつながりを感じる。(井戸田精一)